

クワシロカイガラムシ（第2世代幼虫）の 防除対策について

令和7年7月4日
埼玉県茶業研究所

本年のクワシロカイガラムシ第2世代ふ化幼虫の発生ピークは平年（7月23日）より早い見込みです。早い地域では7月17日、遅い地域では7月22日頃です。

下記の情報を参考に、適切な時期に防除対策を実施しましょう。

防除適期の判断が難しい場合はメール等相談（難しい場合は電話、FAXで。文末に表記）またはサンプルを茶研までご持参ください。

1 有効積算温度による推定

青梅アメダスと各地点の茶株内温度のデータから推定したクワシロの防除時期は以下のとおりです。

調査地点	防除適期 ()内は幼虫ふ化の推定ピーク
入間市（野田）	7月18日～21日（7月17日）
狭山市（笹井） 所沢市（東狭山ヶ丘）	7月19日～22日（7月18日）
入間市（上藤沢）	7月21日～24日（7月20～21日）
入間市（木蓮寺）	7月22日～25日（7月21日）
入間市（茶研）	7月23日～26日（7月22日）
青梅アメダスデータ 所沢アメダスデータ	7月18日～21日（7月17日）

2 防除時期のポイント

薬剤による防除適期はふ化幼虫の推定ピークの翌日から4日後程度が目安です。今後、30℃以上の高温が続くとふ化幼虫の推定ピークが遅れる可能性があります。降雨日等が続いて防除適期を逸する場合がありますが、予測よりも遅れる場合もありますので、防除適期から遅れても発生が目立つ場合は、防除を実施しましょう。

3 防除対策のポイント

一番茶期に摘採・製茶の関係で防除対策ができず、茶株内の幹枝に白い雄まゆが多く発生している茶園は、8月下旬以降、茶株の枯死等が心配されます。今回の防除はしっかり行いましょう。

なお、ヒメアカホシテントウやこう薬病が発生している茶園では今後のクワシロの発生が激減することもあります。薬剤防除を省略できる余地がありますので、ご相談ください。

(1) 3月にプルートMCを散布したほ場

- ・この時期は、防除対策の必要はありません。

(2) プルートMCを散布していないほ場

- ・天敵に影響の少ないアプロードエースフロアブルまたはコルト顆粒水和剤を農薬使用基準に従って散布します。
- ・散布に当たっては茶株内の枝幹に十分に薬液がかかるよう丁寧に実施してください。
- ・ジノテフラン粒剤の土壌混和处理も可能です。摘採時期や同一成分の使用回数に注意しながら、各世代を対象として使用すると密度抑制効果が高まります。
- ・適期より対策が遅れた場合は、薬剤散布直後、または単独で米ぬかまたはナタネ粕（40kg/10a 相当量）を茶株の枝幹に付着するように処理すると抑制効果が期待できます。マシン油乳剤の散布も有効です。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう

連絡先：埼玉県茶業研究所

農業革新支援担当 小俣・田中

TEL：04-2936-1351

FAX：04-2936-2891

E-mail：omata.ryosuke@pref.saitama.lg.jp